

2. ブリーフィング

研修員が到着した翌日、日常生活上及び研修上必要な基礎的な知識を与えるため次のプログラムにより、(株)国際協力サービス・センターの協力を得て実施した。

ブリーフィング実施時間および順序

No.	時間帯	内 容	実 施 方 法	所要時間	備 考
1	9:40~	登録手続き	ブリーフィング担当者が指導	15分	①②③
2	10:15~	「GUIDE TO JICA」	オートスライド上映	25分	⑥
3	10:40~	「GUIDE TO TIC」	ビデオ上映	25分	⑦
4	11:05~	「HOW TO PROTECT YOURSELF FROM FIRE AND EARTHQUAKE AT TIC AND OTHER SIMILAR FACILITIES」	ビデオ上映	20分	⑧
5	11:25~	TIC館内施設案内	防災施設を中心にブリーフィング担当者が案内・説明	25分	⑨
6	11:50~	質疑応答	2、3、4、5の補足説明	10分	④
昼 食					
7	13:30~	資料等配布		10分	⑩⑪
8	13:45~	ALLOWANCE および研修員受講についての補足説明と質疑応答	ブリーフィング担当者による口答説明	45分	⑩
9	14:30~	「GUIDE TO LIFE IN JAPAN」	ビデオ上映	20分	⑫
	14:50~	休 息		10分	
10	15:00~	滞り生活についての補足説明(10の補足説明を含む)	ブリーフィング担当者による口答説明	30分	⑬⑭⑮
11	15:30~	キャッシュカードの使用方法和諸手続きの説明および質疑応答	ブリーフィング担当者による口答説明	30分	⑯
12	16:00~	キャッシュカードによる滞在費の引き出し	銀行における実地指導		⑰

実施業務内容（備考欄の番号に符合する。）

- ① From of Register の配布、記入指導および回収
- ② 旅券有効期限の確認
- ③ 査証有効期限の確認
- ④ 医療カードの配布、写真添付および使用方法の説明
- ⑤ 航空券の預かり、および航空代理店への引き渡し
- ⑥ スライド「GUIDE TO JICA」の上映およびその補足説明
- ⑦ ビデオ「GUIDE TO TIC」の上映およびその補足説明
- ⑧ ビデオ「HOW TO PROTECT YOURSELF FROM FIRE AND EARTHQUAKE AT TIC AND OTHER SIMILAR FACILITIES」の上映およびその補足説明
- ⑨ TIC 館内施設案内
- ⑩ 「KENSU-IN HAND BOOK」「Training in Japan」「Map of Tokyo」「Final Report 用紙」「事業団のしおり」「研修員バッヂ」の配布
- ⑪ 受入諸手当の内容および研修の趣旨についての補足説明、質疑応答
- ⑫ ビデオ「GUIDE TO LIFE IN JAPAN」の上映およびその補足説明
- ⑬ 滞日生活についての補足説明（事業団担当者、受入先、宿泊先、在日大使館の住所・電話番号、その他日常生活必要事項等）
- ⑭ 銀行カードの配布と使用方法の説明（銀行における実地指導を含む）

その他の業務

- ① ブリーフィング出席後の研修員のスケジュール確認・調整（メッセージシート
の点検を含む）
- ② 銀行カード発行遅延分への応答措置
- ③ 同上該当者への当座資金貸付調整（土曜日受講者への対応を含む）
- ④ “PAYMENT OF ALLOWANCE” と実際のスケジュールとの照合および
担当者への連絡

- ⑤ 研修監理員配置のない研修員に対する対応
- ⑥ 同上該当者少額交通費の請求方法等の指導
- ⑦ 配布資料全般の在庫管理
- ⑧ コピー機使用を希望する研修員への諸手続き説明と操作方法の指導
- ⑨ 研修に係わる各種注意事項の伝達
- ⑩ 研修監理員との連絡・調整

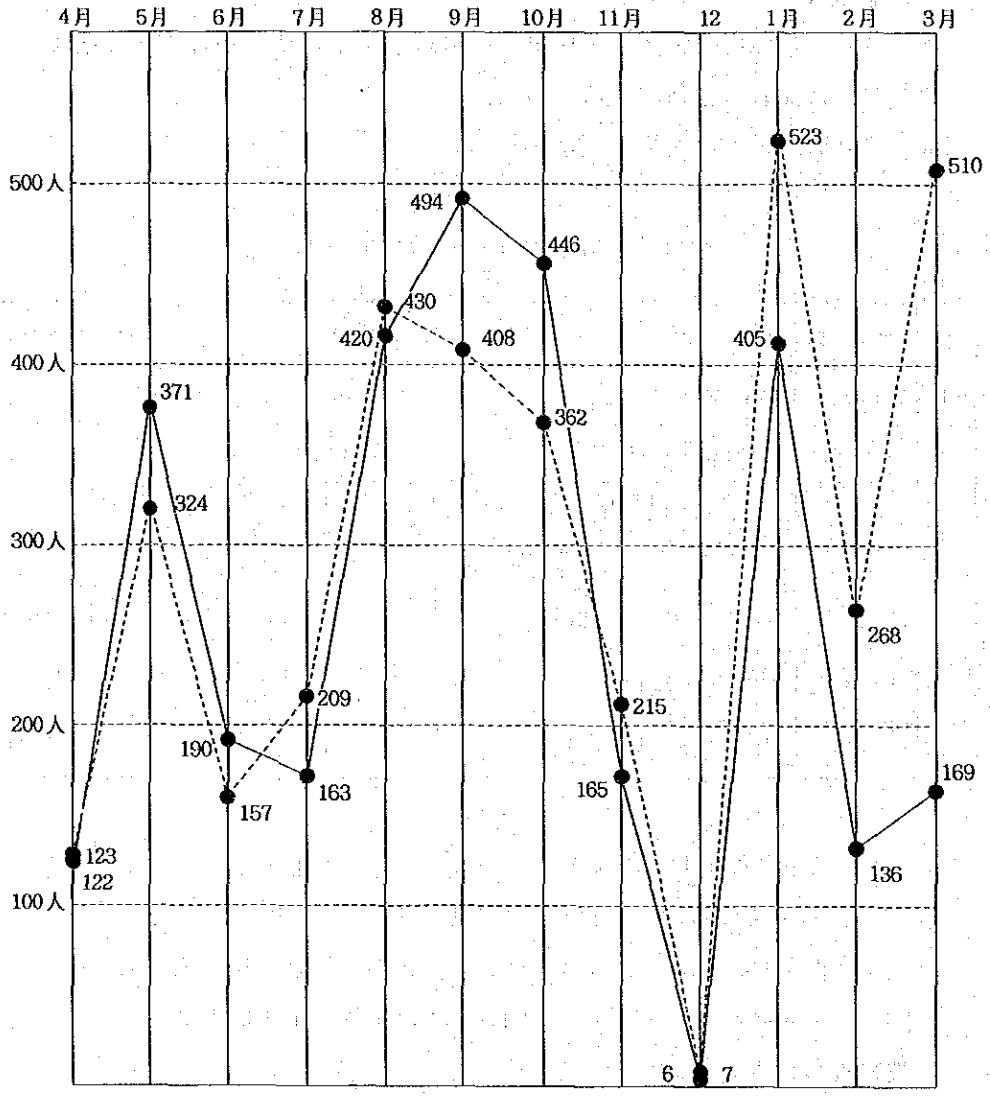
(土曜日) ブリーフィング実施時間および順序

No	時間帯	内 容	実 施 方 法	所要時間
1	10:00~	登録手続き	ブリーフィング担当者が指導	15分
2	10:15~	「GUIDE TO TIC」	ビデオ上映	25分
3	10:40~	「HOW TO PROTECT YOURSELF FROM FIRE AND EARTHQUAKE AT TIC AND OTHER SIMILAR FACILITIES」	ビデオ上映	20分
4	11:00~	「GUIDE TO LIFE IN JAPAN」	ビデオ上映	20分
5	11:20~	TIC館内施設案内	防災施設を中心にブリーフィング担当者が案内・説明	25分
6	11:45~	補足説明および質疑応答	2、3、4、5の補足説明	30分

当センターで作製した防災ビデオの上映及びTIC館内ツアーをプログラムに組み入れ、非常時における心構え、TIC施設の把握等の充実を図った。

本年度のブリーフィング受講者は3,089人(昨年度3,536人)にのぼり、うち集団コース研修員は2,029人、個別コース研修員は1,058人であった。月別受講者数の推移は別表の通りである。

月別ブリーフィング受講研修員の人数



— 平成2年度実績
 ---- 平成元年度実績

3. オリエンテーション

ブリーフィングに引続き、研修員に対して日本事情等について基礎的な知識を与え、研修活動および滞日生活の円滑化を図るとともに、わが国に対する理解を促進させるため、(社)国際交流サービス協会の協力を得てオリエンテーション業務を実施した。

オリエンテーションは昭和60年10月より1サイクルを3日とし週2サイクル(①月～水 ②木～土)実施しており、1サイクルで完結することが望ましいが、どこからでも参加できることが当該オリエンテーションプログラムの利点である。

本年度のオリエンテーション参加者数は2,650人(昨年度2,780人)であり、各月別参加者数は別紙の通りである。

各講義内容をより適確に理解せしめる一助として、講義前にビデオ(英語版)を上映するとともに、研修員に対し各国語版ビデオの貸出しサービスを行なっている。

なお、現在当研修センターが所有するビデオの各国語版は次の通りである。

講義名	使用ビデオ	製作者名	各国語版
社会・風土	Japan - An Overview	インターナショナル映画社 外務省	英、仏、西、中、 インドネシア、アラビア
歴史・文化	The Scroll of Time	(株)桜映画社 国際教育情報センター	英、仏、西、中、 インドネシア、タイ
教育	An Introduction to Education in Japan	(株)インタービスコ J I C A	英、中、西
経 済	Path to Industrialization	(株)桜映画社 J I C A	英、中、西

講義及びビデオ上映はすべて英語で実施しているが、英語を十分に理解できない研修員(とくに個別、カウンターパート)が相当数見受けられるため、講義については講義ノートの各国語版(英、西、仏、中)を作成し配布している。

これらの研修をして、より正確に日本事情を理解せしめ、ひいては技術研修効果を高めるためには、現在上映しているビデオを4ヶ国語で同時視聴できるように施設の整備を図ることも今後必要であろう。

オリエンテーションプログラム

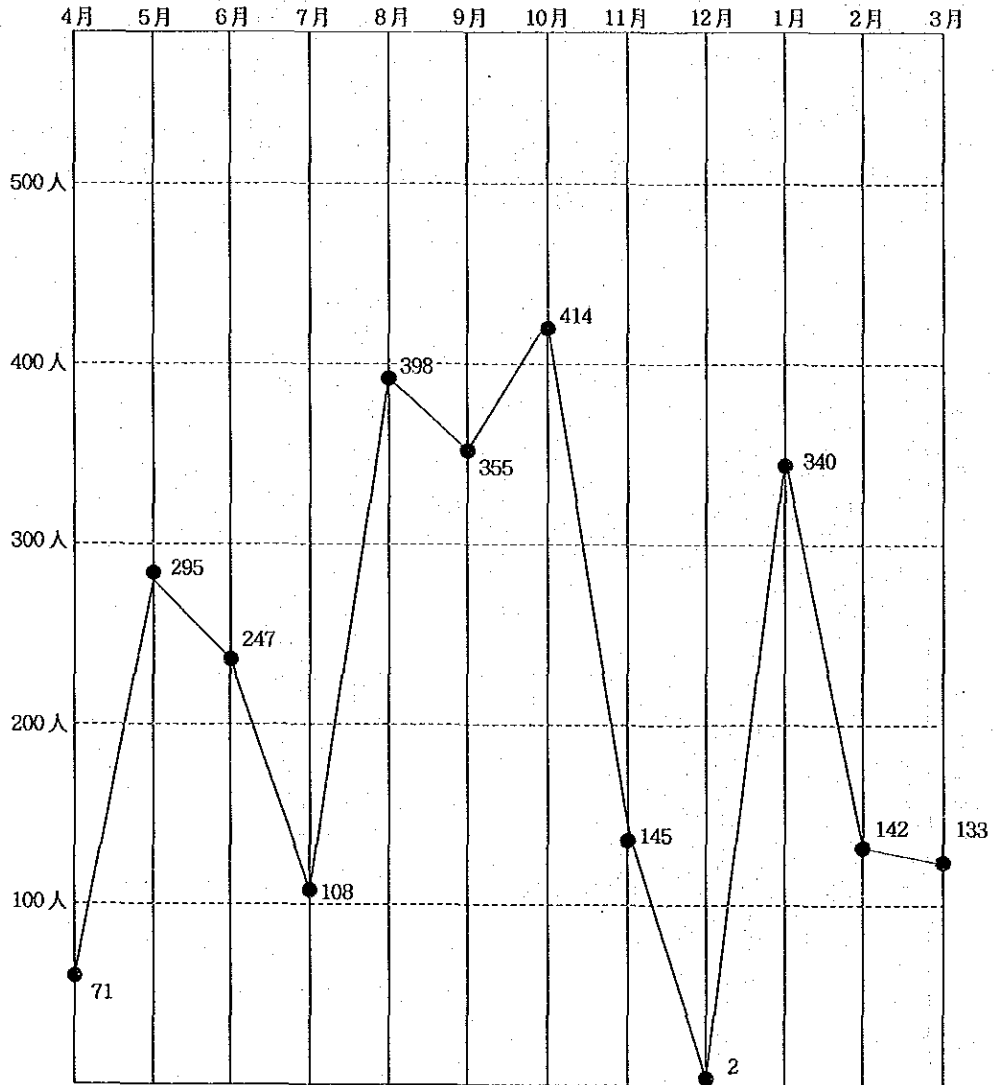
日	時 間	内 容
第1日(月)	10:00~12:00	日本の社会・風土
	13:30~14:30	日本語(Ⅰ)
	14:45~16:45	日本の歴史・文化
第2日(火)	10:00~12:00	日本の教育
	13:30~14:30	日本語(Ⅱ)
	14:45~16:45	日本の経済
第3日(水)	9:00~13:00	都内見学
第1日(木)	月曜日のプログラムを実施する。	
第2日(金)	火曜日のプログラムを実施する。	
第3日(土)	水曜日のプログラムを実施する。	

	日	時 間
生け花紹介	月1回	17:15~19:30

オリエンテーション各講義内容

「日本の社会・風土」	「日本の歴史・文化」	「日本の教育」	「日本の経済」
<p>I. 日本の社会・風土の特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 山の多い島国 2. 四季 3. 等質的な国民 <p>II. 日本人の思考・行動パターンの根底にある意識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族 2. 年功序列 3. 集団 4. 調和 5. 競争 6. 中流 <p>III. まとめ</p> <p>伝統尊重に基づく新しい文化価値の創造</p>	<p>I. 日本の歴史概観</p> <p>海外との交渉</p> <p>海外文化の国風化</p> <p>II. 伝統文化と現代文化</p> <p>日本文化の独自性と変容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 連続性と不連続性 2) 現代に生きている伝統文化の紹介 3) 近代文化と西洋化の違い 4) 文化の発信/受信（アジアの一員として） 	<p>I. 日本の教育の現況</p> <p>教育の各段階の実情</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就学前教育 2) 小学校 3) 中学校 4) 高等学校 5) 大学と大学院 <p>II. 歴史的背景</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 明治時代の日本の教育計画 2) 近代化の三つの方法 3) 都市化と教育 <p>III. 今後の問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高等教育の計画 2) 女性の教育 3) 道徳教育 	<p>I. 戦後の経済発展の諸要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 政府の産業政策 2) 文化・社会の背景と政治的安定性 3) 財政金融と高い貯蓄性 4) 産業の集約化 5) 海外技術の導入 6) 教育 7) 貿易構造 <p>II. 労使関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 終身雇用 2) 企業内トレーニング 3) 柔構造 4) Q C 5) 労働組合 <p>III. 経済技術協力</p> <p>現状と展望</p>
<p>日本の社会・風土の特徴を概観した後、日本人の思考・行動パターンを分析し、その考え方のよってきいたところを明らかにし、日本についての理解の基礎を提示する。</p> <p>主に触れるポイント</p> <p>温暖な気候、小さい国土、少ない天然資源、等質的な国民</p> <p>神道、仏教、儒教それが日本人の思考・行動パターンに与えた影響</p> <p>戦前・戦後の日本社会の変化と予想される今後の動向</p>	<p>日本の歴史を概観し、同時に海外からの文化移入と国風化の過程を追う。また、日本文化の独自性を宗教、美術、天皇制等を例に取り、伝統文化の現代文化との対比等により紹介する。</p> <p>主に触れるポイント</p> <p>世界文明の発祥、日本文化のあけぼの</p> <p>中国、中央アジア、ヨーロッパの影響</p> <p>文字、建築等中国文化の国風化</p> <p>文化、芸術等の伝統と現代に生きる独自の文化</p> <p>欧米化と近代化</p>	<p>日本の近代化の原動力となった教育の発展過程を、江戸末期までさかのぼり分析することにより、日本の教育が日本の発展に果たした役割を説明する。</p> <p>主に触れるポイント</p> <p>日本の教育の現況</p> <p>明治時代の教育計画、都市化と教育</p> <p>高等教育、女性の教育、職業訓練校</p>	<p>戦後の日本経済発展の礎となった諸要因を政府の政策、政治、教育、国際環境等の例を取り、わかり易く説明し、併せて、日本の経営風土ともいえる労使関係及び日本経済の最近の動向にもスポットをあてる。また、経済技術協力の現状と今後にも簡単に触れ、まとめとする。</p> <p>主に触れるポイント</p> <p>民間と政府との関係、文化、社会的背景</p> <p>産業集約化、海外の技術導入と消化</p> <p>技術普及度、年功序列、企業内訓練</p> <p>QC、労組、教育の果たした役割</p> <p>海外依存、貿易、経済技術協力</p>

月別オリエンテーション受講研修員数



4. 日本語研修

日本語研修は、(財)国際協力サービス・センターの協力のもとに集中講習と一般講習に分けて実施した。

(イ) 集中講習

集中講習は、研修員の技術研修期間における言語的支障をできるだけ軽減し、研修員と研修指導者等とのコミュニケーションを円滑にし、研修効果を高めることを目的に、それぞれの専門分野の研修開始前に一定期間実施するもので、研修プログラムの一環として行ない、その受講が義務づけられている。

日本語研修期間は、要求される日本語運用能力の程度等に応じて決まり、研修時間は、通常月曜日から金曜日まで毎日5時間（午前9:30～12:00、午後1:30～4:00まで）となっている。

また、学習効果を考慮し、レベルチェックをしながら、10人前後のクラス編成を標準に実施している。

集中講習の受講者数は、受入研修員数により、増減するが、特に個別研修コースの地方における実施の増大に伴い日本語研修の必要性が高まっているものと考えられる。

テキスト等教材は、JICAが研修員のために開発した共通テキスト、分野別テキスト等を使用し、出来る限り夫々の研修員の日本語使用場面を考慮して指導に当たっている。

教授法は直接法により、日本語研修期間が概ね1ヶ月未満の場合は会話を中心に指導し、テキストはローマ字版を使用することが多い。1ヶ月以上の場合は漢字かな混じり版のテキストを使用し、最初から文字を導入している。指導にあたっては、受講する研修員の日本語研修についての背景や内容が非常に異なっており、つまり、日本語学習の経験の有無（最近、既習してくる研修員が目立っている）、母語の相違、技術研修期間の長短、研修内容の相違、日本語の必要の度合い等、様々な難しい条件があるので、それらの多様性に適切に対応した効果的な研修の実施に留意している。また教室外の屋外研修として、放送局、工場、博物館等の見学、合宿研修、特別教育活動等を取り入れ学習意欲の向上に努めている。

本年度の集中講習の受講者数は、784人（220コース）で、第4四半期の予算

の制約から前年度（849人、285コース）に比べ減少し、研修期間は1ヵ月程度が59.4%、2ヵ月～3ヵ月が37.9%、4ヵ月が2.7%である。実績は別表の通りである。

○合宿研修

教室で学習した日本語を実際に話す機会を与えることを目的とし、概ね300時間以上の日本語集中講習に参加する研修員を対象に、約200時間終了時に実施した。

H.2.12.6～12.7 (1泊2日)

於国立婦人教育会館（埼玉県 武蔵嵐山）

研修員 14名 同行者 3名

○特別教育活動

日本語学習活動の参加を通じて、日本文化等への関心を持たせるとともに、日々の学習意欲を喚起することを目的として実施した。

第1回 「日本の歌をうたいましょう」

H.2.7.6 於 TIC 講堂

曲目：四季の歌、見上げてごらん夜の星を、銀座の恋の物語

参加者 約300名

第2回 「日本語スピーチ大会」

H.2.11.21 於 TIC ブリーフィングルーム

題目：サウディアラビア人から見た日本人、私と日本語、
日本とコロンビア、病院等

スピーカー：17名

ドラマ：ネズミの結婚 12名

参加者 約120名（スピーカーも含む）

第3回 「年賀状を書きましょう」

H.2.12.21 於 TIC ブリーフィングルーム

題目：「賀正」「あけましておめでとう」等

参加者 約80名

第4回 「漢字入門及び書道」

H.3.3.1 於 TIC ブリーフィングルーム

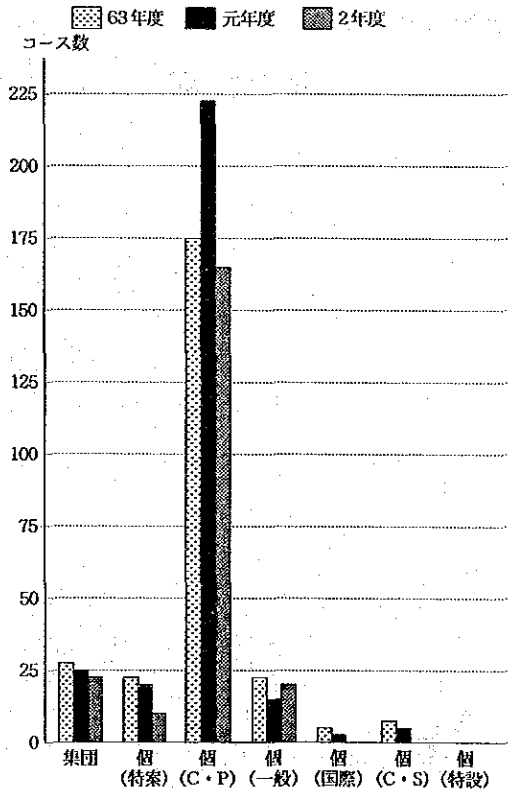
参加者 約100名

日本語研修集中講習実績

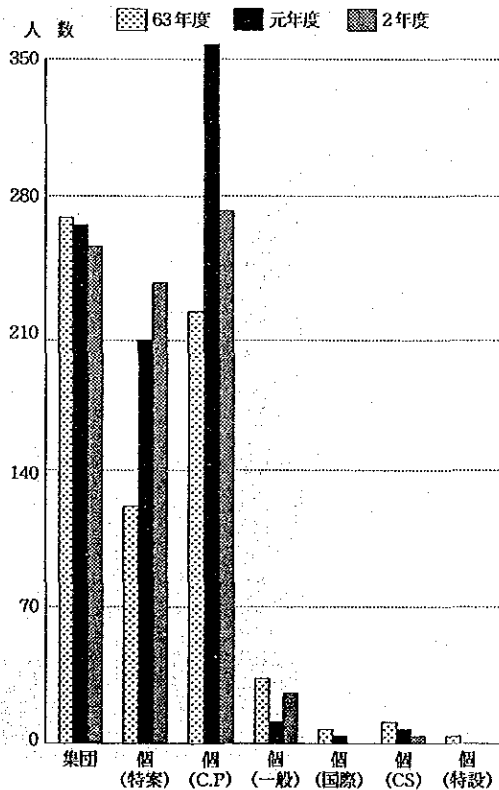
表(1) 受入形態別日本語研修コース数及び人数

受入形態	集 団	個 別					合 計	
		特別案件	C・P	一 般	国 際	C・S		
コ ー ス 数	元年度継続分	2	6	47	8	0	1	64
	2 年 度 分	20	6	118	11	0	1	156
	総 合 計	22	12	165	19	0	2	220
人 数	元年度継続分	22	6	79	8	0	2	117
	2 年 度 分	226	228	195	16	0	2	667
	総 合 計	248	234	274	24	0	4	784

受入形態別日本語研修コース数



受入形態別日本語研修人数



表(2) 日本語研修時間数別分類

時間数		1H } 100H	101H } 200H	201H } 300H	301H } 400H	401H } 500H	501H } 1200H	合計
平成 元年度	人数 (パーセント)	569 (67%)	139 (16.4%)	99 (11.7%)	40 (4.7%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	849 (100%)
平成 2年度	人数 (パーセント)	466 (59.4%)	203 (25.9%)	94 (12.0%)	21 (2.7%)	0	0	784 (100%)

日本語研修の時間数別分類

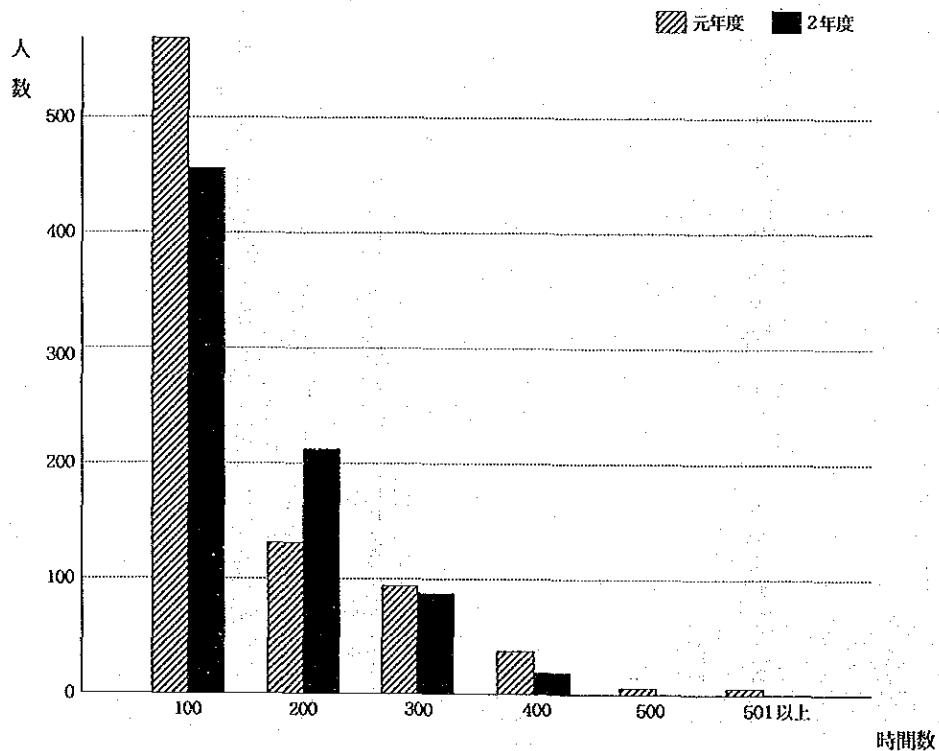
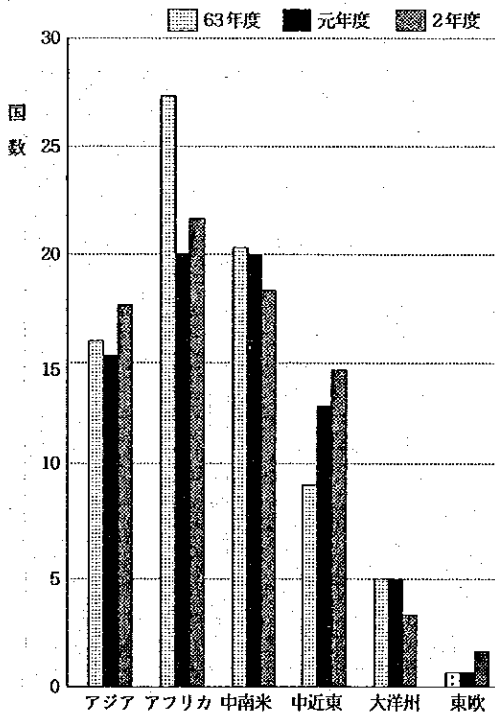


表 (3) 地域別及び国別分布状況

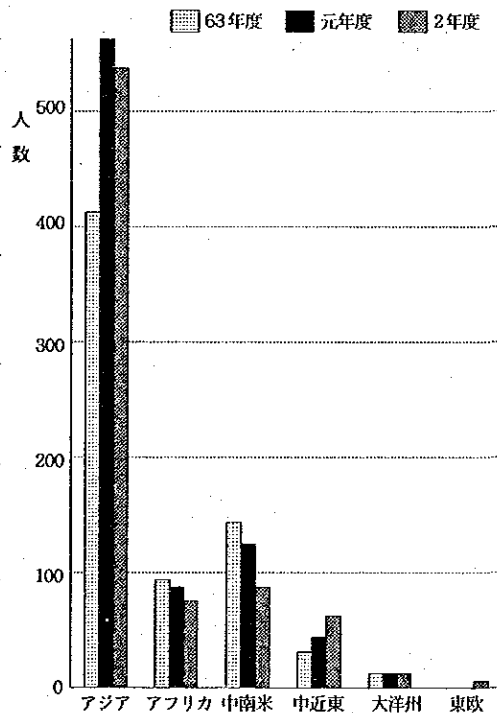
地域別分布

地 域	国 数	%	人 数	%
ア ジ ア	19	24.4	539	68.8
ア フ リ カ	22	28.2	69	8.8
中 南 米	18	23.1	92	11.7
中 近 東	14	17.9	68	8.7
大 洋 州	3	3.8	12	1.5
欧 州	2	2.6	4	0.5
(合 計)	78	100	784	100

国数で見る地域別分布



人数で見る地域別分布



国別分布（アフリカ 22か国）

国名	人数	国名	人数
ザンビア	10	マダガスカル	2
ケニア	9	セネガル	2
ナイジェリア	6	ブルディン	1
タンザニア	6	モーリシャス	1
ウガンダ	4	ベナン	1
ガーナ	4	セイシエル	1
リベリア	4	ニジェール	1
ルワンダ	4	ソマリア	1
エチオピア	3	象牙海岸	1
マラウイ	3	ザイール	1
中央アフリカ	2		
ガンビア	2	合計	69

国別分布（中南米 20か国）

国名	人数	国名	人数
メキシコ	32	パナマ	3
ペルー	20	ジャマイカ	2
ブラジル	32	チリ	2
パラグアイ	12	ホンデュラス	2
ボリヴィア	8	ドミニカ共和国	2
アルゼンティン	6	エクアドル	1
ウルグアイ	6	セント・ルシア	1
コスタ・リカ	5	キューバ	1
コロンビア	4	ヴェネズエラ	1
グアテマラ	3		
ニカラグア	3	合計	134

国別分布（アジア 19 か国）

国名	人数	国名	人数
マレーシア	131	ブータン	6
韓国	81	インド	5
インドネシア	66	ブルネイ	4
中国	63	シンガポール	4
タイ	54	ミャンマー	2
スリ・ランカ	41	モンゴル	2
フィリピン	33	カンボディア	2
パキスタン	19	ラオス	2
ネパール	15	香港	1
バングラデシュ	8	合計	539

国別分布（中近東 14 か国）

国名	人数	国名	人数
エジプト	21	チュニジア	2
サウディ・アラビア	14	南イエメン	1
トルコ	11	ジョルダン	1
スーダン	4	シリア	1
アルジェリア	4	イラン	1
イエメン	3	イラク	1
モロッコ	2		
バハレーン	2	合計	68

国別分布（大洋州 3か国）

国名	人数	国名	人数
パプア・ニューギニア	9	ミクロネシア	1
フィジー	2	合計	12

国別分布（欧州 2か国）

国名	人数	国名	人数
マルタ	1		
ユーゴスラヴィア	3	合計	4

表（4）日本語能力到達目標別分類

（平成元年度分）

到達目標段階	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
人数	200	203	140	95	128	17	0	0	1	784

日本語研修設定クラス数及び人数

① 設定クラス数 76クラス

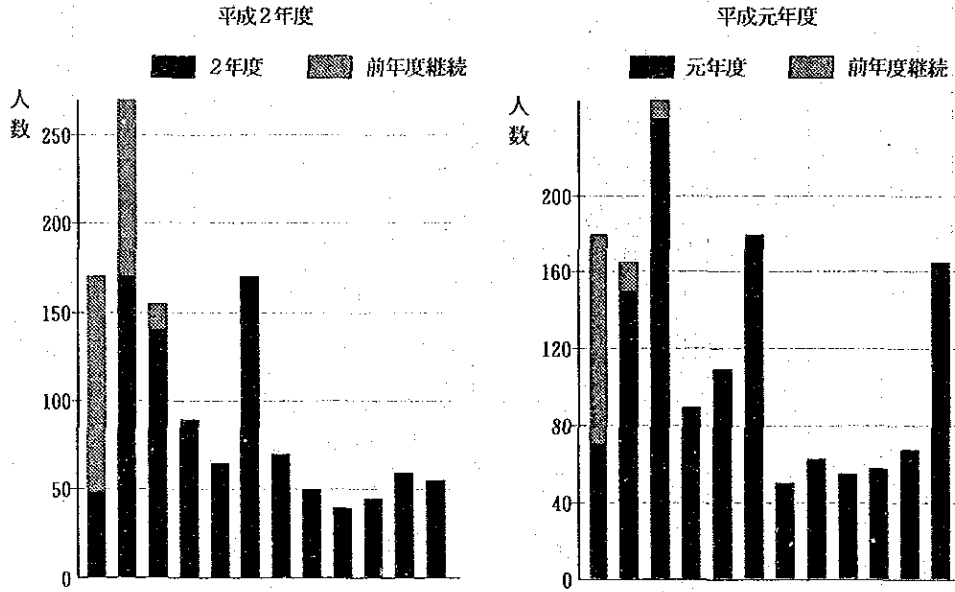
② 研修員数 784名

1クラス平均成員数 10.3名

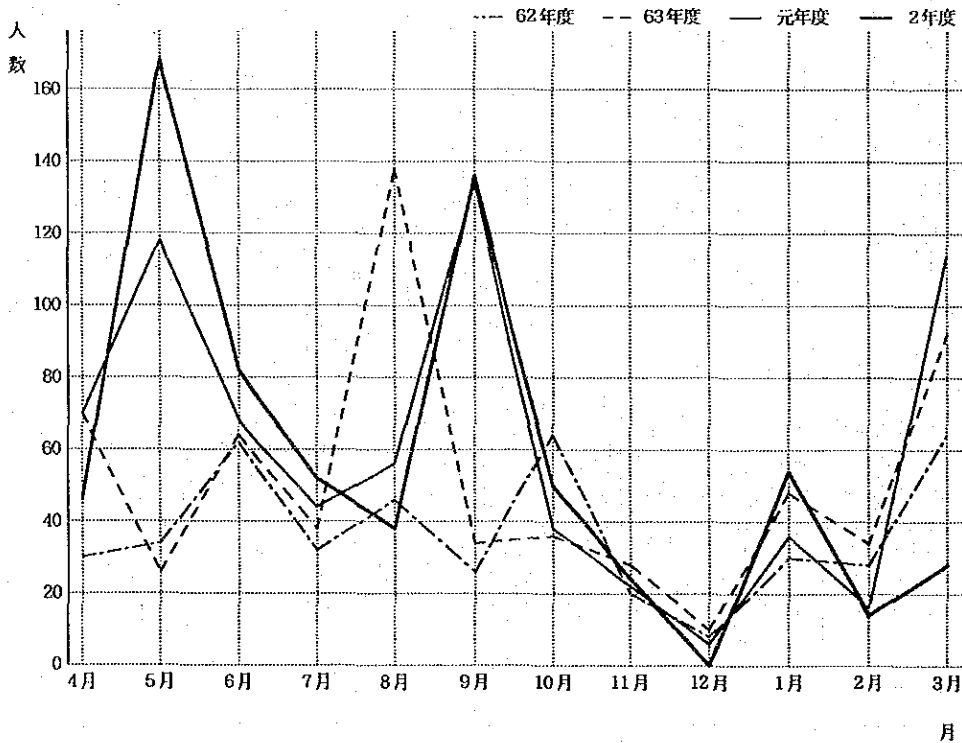
日本語能力評価レベル

評価レベル	日本語能力到達目標（ガイドラインの「到達レベルの内容」と同一内容）	
	（聞く、話す）	（読む、書く）
1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の名前と国籍についての簡単な自己紹介や「おはようございます」等、ごく簡単な挨拶ができる。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> 買物や食事の注文等、日常生活の基本的な場面での簡単なやりとりがなんとかできる。 「ちょっと待って下さい」等、実習現場でのごく簡単な指示が理解できる。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 病氣、外出、パーティ等の場面での簡単な会話ができる。 「あそこにありますから、取ってください」等、実習現場での簡単な指示が理解でき、かつ、反応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなとカタカナの読みができる。「ごご8じにセンターへかえりませう」等、仮名書きの短い分が読め、かつ、書ける。 「出口/入口、危険、注意」等、一部の漢字の標示が理解できる。
4	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での会話はほぼでき、「いらっしゃいます」等、簡単な敬語も理解できる。 「実習を始めます。はじめに、はさみを使ってここを切ってください」等、実習現場である程度の説明が分かり、かつ、応答ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度まとまった内容をもつ仮名書きの文等が読め、かつ、書ける。 簡単な漢字が多少読める。
5	<ul style="list-style-type: none"> 見たり人から聞いたりしたことを話題として、話し合うことができる。 実習現場で研修内容について簡単な質疑応答ができ、かつ、許可を求めたり、依頼したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を使って、漢字の読み方や意味を調べることができる。 熟字仮名交じりの短い文章が辞書を引きながら理解でき、かつ、書ける。 「～である」等、書き言葉が理解できる。
6	<ul style="list-style-type: none"> 各研修分野での初歩的な表現がほぼ理解できる。 実習現場で研修内容についてある程度の質疑応答ができ、かつ、その内容についてほかの人に簡単な説明ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術研修に関する簡単な文章が読める。 研修に関する簡単なメモや伝言が書ける。
7	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な会話については、一応意志疎通に困難を感じない段階に達する。 各研修分野での基本的な表現がある程度理解でき、実習現場で研修内容に関するやや高度な質疑応答ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学、技術分野における一般的な話題の文章がだいたい理解でき、かつ、簡単なパンフレットや説明書等が読める。 研修に関する簡単な記録や日誌等が書ける。
8	<ul style="list-style-type: none"> ある主題について自分の考えや意見等がある程度述べられる。 研修に関する講義において、その細部は分からなくとも要点をつかむことができる。 各研修分野の専門的な表現や語彙がある程度理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ある主題についての文章が読める。 研修に関する説明のメモが取れる。
9	<ul style="list-style-type: none"> 専門分野に関して一応話題が進められる。 研修分野に関する講義の内容がほぼ把握でき、実習現場においても、専門的な質疑応答ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各研修分野の専門的な表現や語彙を使った文章がある程度読める。 ある主題について簡単な報告が書ける。

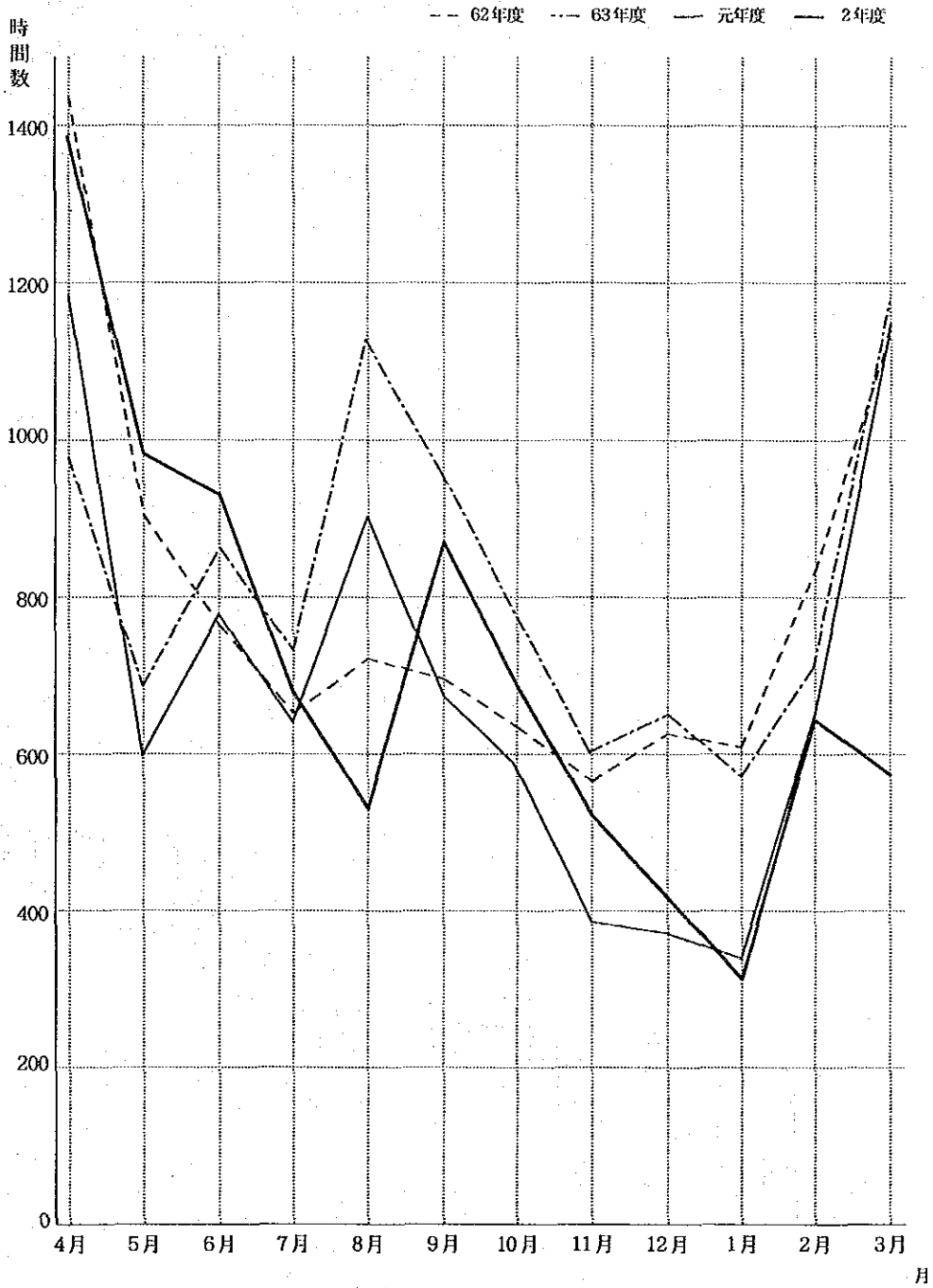
表(5) 月別受講研修員の動き



月別新規受講研修員数の動き



表(6) 月別実施時間数の動き



表(7) 平成2年度日本語研修クラス設定表

クラス№	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	日本語学習期間
45	6	■	■											H2. 1.16~H2. 5. 2
46	9	■	■											H2. 1.16~H2. 5.11
47	9	■												H2. 1.22~H2. 4. 6
48	8	■	■											H2. 2. 5~H2. 4. 6
51	11	■	■											H2. 2.13~H2. 5.11
54	13	■	■	■										H2. 2.12~H2. 6. 8
56	12	■	■	■										H2. 3. 5~H2. 6.11
57	14	■	■	■										H2. 3. 5~H2. 6.22
58	10	■	■	■										H2. 3.12~H2. 5.11
59	9	■	■											H2. 3.26~H2. 4.13
60	13	■	■	■										H2. 3.26~H2. 5.11
61	12	■	■	■										H2. 3.26~H2. 6. 1
1	18	■	■	■	■									H2. 4. 2~H2. 5. 2
2	12	■	■	■	■									H2. 4. 2~H2. 5. 2
3	8	■	■	■	■									H2. 4. 2~H2. 5. 2
4	13	■	■	■	■									H2. 4. 2~H2. 6.22
5	7	■	■	■	■									H2. 5.14~H2. 6.29
6	12	■	■	■	■									H2. 5.14~H2. 6.29
7	17	■	■	■	■									H2. 5.21~H2. 6. 1
8	10	■	■	■	■									H2. 5.24~H2. 6.22
9	18	■	■	■	■									H2. 5.23~H2. 6. 5
10	21	■	■	■	■									H2. 5.23~H2. 6. 5
11	21	■	■	■	■									H2. 5.23~H2. 6. 5
12	15	■	■	■	■									H2. 5.23~H2. 6. 5
13	15	■	■	■	■									H2. 5.23~H2. 6. 5
14	15	■	■	■	■									H2. 5.23~H2. 6. 5
15	12	■	■	■	■									H2. 5.23~H2. 6. 5
16	10	■	■	■	■									H2. 5.24~H2. 6.20
17	16	■	■	■	■									H2. 6. 4~H2. 6.29
18	15	■	■	■	■									H2. 6.18~H2. 6.29
19	5	■	■	■	■									H2. 6.18~H2. 7. 5
20	11	■	■	■	■									H2. 6.18~H2. 7.20
21	9	■	■	■	■									H2. 6.18~H2. 8.10
22	15	■	■	■	■									H2. 6.25~H2. 7. 6
23	8	■	■	■	■									H2. 6.25~H2. 7. 6
24	7	■	■	■	■									H2. 7. 2~H2. 8. 3
25	7	■	■	■	■									H2. 7. 2~H2. 8. 3
26	17	■	■	■	■									H2. 7. 2~H2. 8.21
27	12	■	■	■	■									H2. 7.16~H2. 8. 3
28	11	■	■	■	■									H2. 7.16~H2. 8.14
29	14	■	■	■	■									H2. 8. 6~H2. 9.28
		■	■	■	■									H2. 8.13~H2.10. 2

クラス№	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	日本語講習期間
30	10													H2.8.20~H2.8.31
31	8													H2.9.3~H2.9.14
32	8													H2.9.3~H2.9.14
33	9													H2.9.3~H2.10.19
34	13													H2.9.3~H2.10.23
35	11													H2.9.3~H2.11.2
36	12													H2.9.4~H2.9.19
37	14													H2.9.4~H2.9.19
38	14													H2.9.4~H2.9.19
39	14													H2.9.4~H2.9.19
40	14													H2.9.4~H2.9.19
41	12													H2.9.4~H2.9.19
42	4													H2.9.17~H2.10.19
43	6													H2.10.1~H2.10.12
44	4													H2.10.1~H2.10.12
45	15													H2.10.1~H2.10.19
46	10													H2.10.1~H2.12.27
47	8													H2.10.1~H2.12.27
48	7													H2.10.15~H2.12.27
49	12													H2.11.5~H2.12.7
50	10													H2.11.5~H3.1.25
51	3													H2.11.19~H2.11.30
52	8													H2.12.3~H3.2.15
53	4													H3.1.14~H3.3.29
54	10													H3.1.22~H3.5.22
55	9													H3.1.22~H3.5.22
56	10													H3.1.28~H3.2.22
57	12													H3.1.28~H3.2.22
58	4													H3.2.4~H3.3.29
59	9													H3.2.4~H3.4.5
60	3													H3.2.18~H3.3.1
61	4													H3.3.4~H3.4.5
62	9													H3.3.11~H3.3.20
63	9													H3.3.11~H3.3.20
64	3													H3.3.25~H3.5.24
元年度クラス数		14.13.12	8.5.7	13.8.8	6.7.6	7.8.9	14.11.4	7.7.6	4.4.4	4.4.4	2.4.5	7.8.8	14.13.16	普通科15 数理科2
2年度クラス数		16.14.12	9.15.15	8.10.9	5.7.6	4.4.5	15.13.5	8.7.4	5.5.6	5.5.5	2.3.5	8.8.6	6.8.7	普通科15 数理科2
元年度月別時数		1,184.5	587.5	775	635	905	667	553.5	374	360	340	648	1,211	合計 8,260.5
2年度		1,380	985	930	685	532.5	888	715	535	415	313	634	565	合計 8,597.5

(ロ) 一般講習

一般講習は、技術研修の課外活動の一つとして研修員の自由参加により実施しており、日常生活（外出、買い物など）及び日本人との交流を円滑にし、日本文化・習慣の理解を促進することを目的としている。

クラスは従来より入門、基礎、応用、上級の各コースに分けて行なっている。研修期間は、入門コースが3週（13.5時間）と基礎、応用、上級コースがそれぞれ2ヶ月（36時間）で実施している。

授業は通常月曜日から水曜日まで週3回1時間半（午後6：30～8：00時まで）行なっている。

一般講習の場合は、自由参加であるため、講習が進むにしたがって漸減していく傾向にあるが、出席率が終了時60%以上に達した研修員には、参加証書を授与している。

一般講習で使用するテキスト、教材は、JICAが開発した、50時間用テキスト、初級用テキスト（第1、2、3分冊）、絵教材、VTR教材等である。

本年度の一般講習は、第4四半期開催予定の全コースが予算の制約から中止となったため受講者数は858人で前年度（1,133人）より減少した。

平成2年度日本語一般講習クラス設定表

クラス№	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	日本語講習期間
入門35	10	■												H2. 3.19~H2. 4. 4
入門36	20	■												H2. 3.26~H2. 4.11
入門1	22	■	■											H2. 4. 2~H2. 4.18
入門2	8	■	■											H2. 4. 9~H2. 4.25
入門3	13	■	■											H2. 4.16~H2. 5. 2
入門4	6	■	■											H2. 4.23~H2. 5. 9
入門5	22	■	■	■										H2. 5.14~H2. 5.30
入門6A	23	■	■	■										H2. 5.21~H2. 6. 6
入門6B	20	■	■	■										H2. 5.21~H2. 6. 6
入門7	25	■	■	■	■									H2. 5.28~H2. 6.13
入門8	20	■	■	■	■									H2. 6. 4~H2. 6.20
入門9	17	■	■	■	■									H2. 6.18~H2. 7. 4
入門10	11	■	■	■	■									H2. 6.25~H2. 7.11
入門11	14	■	■	■	■	■								H2. 7. 9~H2. 7.25
入門12	28	■	■	■	■	■								H2. 7.23~H2. 8. 8
入門13	22	■	■	■	■	■								H2. 8. 6~H2. 8.22
入門14	24	■	■	■	■	■	■							H2. 8.20~H2. 9. 5
入門15	10	■	■	■	■	■	■							H2. 8.27~H2. 9.12
入門16	23	■	■	■	■	■	■							H2. 9. 3~H2. 9.19
入門17	25	■	■	■	■	■	■							H2. 9. 3~H2. 9.19
入門18	27	■	■	■	■	■	■	■						H2. 9.10~H2. 9.26
入門19	10	■	■	■	■	■	■	■						H2. 9.17~H2.10.22
入門20	25	■	■	■	■	■	■	■						H2. 9.25~H2.10. 9
入門21	18	■	■	■	■	■	■	■						H2.10. 1~H2.10.17
入門22	15	■	■	■	■	■	■	■						H2.10. 1~H2.10.17
入門23	22	■	■	■	■	■	■	■						H2.10. 8~H2.10.24
入門24	18	■	■	■	■	■	■	■						H2.10. 8~H2.10.24
入門25	12	■	■	■	■	■	■	■						H2.10.15~H2.10.31
入門26	21	■	■	■	■	■	■	■						H2.10.22~H2.11. 7
入門27	26	■	■	■	■	■	■	■						H2.10.29~H2.11.14
入門28	13	■	■	■	■	■	■	■						H2.11.13~H2.11.28
入門29	12	■	■	■	■	■	■	■						H2.11.26~H2.12.12
月別時間数		49.5	46.5	45	34.5	33	63	87	28.5	9	-	-	-	合計時間数 396

平成2年度日本語一般講習クラス設定表

人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	日本語講習期間
基礎 11	■												H2. 3. 5~H2. 4. 25
基礎 1	■	■											H2. 4. 2~H2. 5. 23
基礎 2		■	■										H2. 5. 7~H2. 6. 27
基礎 3			■	■									H2. 6. 18~H2. 6. 8
基礎 4				■	■								H2. 7. 23~H2. 9. 12
基礎 5					■	■							H2. 8. 27~H2. 10. 17
基礎 6						■	■						H2. 9. 25~H2. 11. 14
基礎 7							■	■					H2. 10. 22~H2. 12. 12
基礎 8								■	■				H2. 12. 3~H3. 1. 30
月別時間数	33	34.5	27	28.5	30	28.5	42	24	25.5	16.5	-	-	合計時間数 289.5
応用 10	■												H2. 3. 12~H2. 5. 2
応用 1		■	■										H2. 4. 9~H2. 5. 30
応用 2			■	■									H2. 6. 4~H2. 7. 25
応用 3				■	■								H2. 7. 16~H2. 9. 5
応用 4					■	■							H2. 9. 10~H2. 10. 31
月別時間数	30	24	18	30	19.5	16.5	21	-	-	-	-	-	合計時間数 159
上級 5	■												H2. 3. 5~H2. 4. 25
上級 1		■	■										H2. 5. 7~H2. 6. 27
上級 2				■	■								H2. 7. 2~H2. 8. 22
上級 3					■	■							H2. 9. 10~H2. 10. 31
上級 4						■	■						H2. 11. 5~H2. 12. 26
上級 5							■	■					H2. 11. 5~H2. 12. 26
月別時間数	16.5	18	18	21	15	12	21	33	33	-	-	-	合計時間数 187.5
月別合計時間数	129	123	108	114	97.5	120	171	85.5	67.5	16.5	-	-	総時間数 1092

平成2年度日本語一般講習受講者地域別分布状況

1. 国数別

地 域	国 数	%
ア ジ ア	19	22.4%
中 近 東	13	15.3%
ア フ リ カ	23	27.1%
中 南 米	21	24.7%
大 洋 州	7	8.2%
欧 州	2	2.3%
合 計	85	100.0%

2. 人数別

地 域	人 数	%
ア ジ ア	518	60.4%
中 近 東	63	7.4%
ア フ リ カ	87	10.1%
中 南 米	165	19.2%
大 洋 州	22	2.6%
欧 州	3	0.3%
合 計	858	100.0%

3. 国別人数

【 ア ジ ア 】	518	【 ア フ リ カ 】	87	メキシコ	26
バングラデシュ	20	ベナン	1	ニカラグァ	4
ブータン	1	ボツワナ	1	パナマ	1
ミャンマー	7	カーボ・ヴェルデ	1	パラグアイ	11
中 国	83	中央アフリカ	1	ペルー	22
インド	14	ゴロモ	2	セント・ルシア	1
インドネシア	104	コンゴ	1	トリニダッド・トバゴ	1
大韓民国	17	エチオピア	4	ウルグアイ	2
ラオス	2	ガーナ	4	ヴェネズエラ	5
マレーシア	36	ギニア	1	エル・サルヴァドル	2
モルディブ	4	象牙海岸	4		
モンゴル	9	ケニア	14		
ネパール	10	リベリア	2		
パキスタン	27	マダガスカル	2		
フィリピン	53	マラウイ	1	【 太 洋 州 】	22
シンガポール	26	モーリシャス	2	クック諸島	1
スリ・ランカ	37	ニジェール	1	フィジー	8
タ イ	56	ナイジェリア	7	パプア・ニューギニア	7
ブルネイ	1	セيشェル	1	トンガ	1
香 港	11	タンザニア	17	西サモア	2
		ウガンダ	4	ミクロネシア	1
		ザイール	1	ヴァヌアツ	2
		ザンビア	12		
【 中 近 東 】	63	ジンバブエ	3		
アルジェリア	5				
エジプト	7				
イラン	3			【 欧 州 】	3
イラク	5	【 中 南 米 】	165	マルタ	1
ジョルダン	4	アルゼンティン	18	ユーゴスラヴィア	2
オマーン	2	ボリヴィア	9		
カタール	1	ブラジル	24		
サウディ・アラビア	4	チ リ	5		
スーダン	7	コロンビア	13		
シリア	2	コスタ・リカ	5		
テュニジア	2	キューバ	1		
トルコ	14	ドミニカ共和国	2		
イエメン	7	エクアドル	1		
		グアテマラ	9		
		ホンジュラス	1	合 計	858
		ジャマイカ	2		

(イ) 日本語教材整備

日本語共通テキスト等の開発は、昭和58年度から5ヶ年計画のもとに実施し、概ね完成をみたところ、元年度よりこれら共通テキストの使用効果を高めるための補助教材等の整備に当たるとともに、教材の指導法等日本語研修実施体制に重点を置くこととし今年度は以下の事業を実施した。

本事業の実施にあたっては、研修事業部の基本方針のもと、前年度同様、日本語テキスト編纂等専門部会の下記4名の専門委員の指導を仰ぐとともに、各研修センター、支部の協力を得た。開発の実務は（財）国際協力サービス・センターに委託した。

日本語テキスト編纂等専門部会委員

木村 宗 男（日本語教育学会前副会長）

小出 詞 子（姫路独協大学教授）

斎藤 修 一（慶応義塾大学教授）

川瀬 生 郎（東京大学教授）

日本語教材整備等の内容

(a) 『保健医療分野教師用手引き』の作成

平成元年に作成した『保険医療分野』テキストを研修員が研修現場で使用し、発展的に活用することを目的とした授業計画指導書を作成した。

(b) 『50時間テキスト』（スペイン語版）の作成

昭和62年度に作成した『50時間テキスト』のスペイン語版を中南米の研修員向けに作成した。

(c) 『絵教材』（50時間テキスト用）の作成

上記テキストを更に活用するための絵教材を作成した。

(d) 日本語研修の評価システムの整備・拡充

・ 日本語能力認定試験の結果分析

日本語研修におけるより良い教材開発・教授法の確立のために平成元年12月から平成2年11月の1年間に「聴解」及び「筆記」日本語能力認定試験を受験した研修員を対象とし、昨年度までの受験者者分とあわせて結果

の分析を実施した。

(e) 既成テキストの改訂準備作業

初級3分冊の会話文に関する各センター支部における指導状況の調査を行った。

(f) ニュースレターの発行

技術研修、技術移転のための日本語研修及び教材の最も効果的なあり方について、各研修センター、支部日本語講師間、及び教材開発担当者間で共通認識を得るために、日本語合同研究会での研究成果、研修員のための日本語指導法に関する理論的かつ実践的情報を掲載したニュースレターを年3回各250部発行した。

(g) 日本語合同研究会の主宰

教材整備事業及び日本語研修事業を円滑に実施するとともに質的向上を目指して、各研修センター、支部の日本語講師をメンバーとする日本語合同研究会を上、下半期に各1回の割合で開催し、相互間の研究発表、意見交換、研究授業、専門家による講演等を通じて各講師間の研究、研修の場として前年度に引き続き実施した。

日本語テキスト等一覧表

〈テキスト〉

		作成年度
* 1	{技術研修のための日本語} 第1分冊ローマ字版	58 (59改訂)
* 2	" " 第1分冊漢字かな混じり版	58 "
* 3	" " 第2分冊 "	58 "
* 4	" " 第3分冊 "	58 "
* 5	" " 第4分冊 "	59 (61改訂)
* 6	" " 第5分冊 "	59 "
* 7	" " 第6分冊 "	60
* 8	" " 第7分冊 "	61
* 9	" " 工業技術分野	60
* 10	" " 農業技術分野	61
* 11	" " 保健医療分野	元
* 12	" " 50時間英語版	62
* 13	" " スペイン版	2

〈副教材〉

* 14	{技術研修のための日本語} 文法解説書 (第1~3分冊用) 英語版	60
* 15	" " (" ") スペイン語版	62
* 16	" " (" ") インドネシア語版	63
* 17	" " 教師用手引初級 (第1~3分冊用)	60
* 18	" " 教師用手引中級前期 (第4, 5分冊用)	61
* 19	" " 教師用手引中級後期 (第6分冊用)	62
* 20	" " 教師用手引工業技術分野	61
* 21	" " 教師用手引農業技術分野	62
* 22	" " 教師用手引保健医療分野	2
* 23	" " 絵教材 (1「カラー43モノ74」、2「カ43モ101」、3「カ94モ95」用)	59
* 24	" " (50H用)	2
* 25	" " 練習帳1 (第1分冊)	62
* 26	" " 2 (第2分冊)	63
* 27	" " かな練習帳 (録音テープ付)	元
* 28	Simple Conversation in Japanese 英語版	60
* 29	日本語研修ビデオライブラリー用テキスト	62

〈テープ教材〉

* 30	{技術研修のための日本語} 第1分冊カセットテープ (8本)	59 (60改訂)
* 31	" " 第2分冊 " "	59 "
* 32	" " 第3分冊 " "	59 "
* 33	" " 第4分冊 " (5本)	60
* 34	" " 第5分冊 " "	60
* 35	" " 第6分冊 " (8本)	61
* 36	" " 第7分冊 " (2本)	62
* 37	" " 50時間 " (4本)	63
* 38	かな練習帳 (録音テープ付)	(1本) 元
* 39	Simple Conversation in Japanese 英語版 " (1本)	60

〈ビデオ教材〉

40	日本語研修ビデオライブラリー UNIT 1~11 (11本)	60
	12~18 (7本)	61

【ワードリスト】				作成年度
* 41	{技術研修のための日本語}	ワードリスト第1分冊 (ローマ字版)	スペイン語	60
* 42	"	"	タイ語	60
* 43	"	"	インドネシア語	60
* 44	"	"	フランス語	61
* 45	"	"	マレーシア語	61
* 46	"	"	アラビア語	62
* 47	"	ワードリスト第1分冊 (漢字かな混じり版)	中国語	60
* 48	"	"	スペイン語	60
* 49	"	"	タイ語	60
* 50	"	"	インドネシア語	60
* 51	"	"	フランス語	61
* 52	"	"	マレーシア語	61
* 53	"	"	アラビア語	62
* 54	"	ワードリスト第2分冊 (漢字かな混じり版)	中国語	60
* 55	"	"	スペイン語	60
* 56	"	"	タイ語	61
* 57	"	"	インドネシア語	61
* 58	"	"	フランス語	61
* 59	"	"	マレーシア語	61
60	"	"	アラビア語	元
61	"	ワードリスト第3分冊 (漢字かな混じり版)	スペイン語	62
62	"	"	タイ語	62
63	"	"	インドネシア語	62
64	"	"	フランス語	62

【専門用語集】			
* 65	専門用語集	職業訓練分野	58
66	"	水産分野	58
67	"	航海技術	60
68	"	視聴覚技術	60
69	"	船舶技術	60
70	"	生活改善普及	60

【その他】			
	日本語能力認定試験問題初級用 (聞き取り) A (含試験テープ)		59, 60, 61
	"	初級用	62
	"	初級用 B (含試験テープ)	63
	"	中級5レベル用	63

【別予算】			
	Minimum Essentials for Japanese Conversation		58
*	Simple Conversation in Japanese	フランス語版	
*	"	スペイン語版	
*	"	タイ語版	
*	"	インドネシア語版	
*	"	マレーシア語版	
*	"	中国語版	
	"	(韓国語版)	
	Simple Conversation in Japanese	フランス語版	カセットテープ
	"	スペイン語版	"
	"	タイ語版	"
	"	インドネシア語版	"
	"	マレーシア語版	"
	"	中国語版	"

*は市販しているもの

5. 健康管理

診療室は6名の嘱託医師と看護婦3名の体制のもとに次の通り実施した。研修員の健康上のカウンセリング、予防措置及び応急措置を行うこと、また、本格的な検査、治療が必要と思われる場合には、近隣の医療機関を紹介することを主な役割としている。

嘱託医師の派遣を含む診療室の運営については、東京女子医科大学及び国立病院医療センターの協力により円滑な実施をはかった。

診療室運営は下記のとおり。

診療日及び時間 ①診療日 月曜～土曜（日曜・祝祭日は休診）

②診療時間 16時～21時

※ 但し、嘱託医師の勤務は18時～21時

従って16時～18時までは看護婦による応急措置及び診療受付時間とする。

業務内容 ①研修員の一般的な健康相談

②研修員の傷病に対する診察及び応急措置

③病状により適当な医療施設への紹介

（最寄りの開業医・病院——病状によって東京女子医大病院、あるいは国立病院医療センター等）

語学の堪能な医師と看護婦を配置している医療体制の整備により、健康相談を通じ研修員の心身の不安の解消に大いに貢献していると思われる。

主な疾患としては、気候や生活環境の変化に起因すると思われる風邪、皮膚疾患、便秘等であり、これらの諸疾患は来日直後、日本の生活に順応する過程において多く見受けられる。

平成2年度は診療室利用者数(2,128人)に比較して、外部医療機関への紹介件数が302人と著しく低くなっており診療室が効果的に機能していることが窺われる。

診療室の利用状況および外部医療機関紹介数は次の通りである。

診察室利用状況表

平成2年4月～平成3年3月

科 月	内	外	皮膚	整形	泌尿	眼	耳鼻	婦人	齒	人数 合計	稼働 日数	平均
4	92	5	25	11	3	6			3	145	24	6.04
5	100	5	31	14		5	7		5	167	24	6.96
6	115	5	23	9		4		3	5	164	26	6.70
7	101	15	31	18	3	11	10	3	7	199	26	7.65
8	95	26	37	17	2	10	8	2	13	210	27	7.80
9	121	9	18	17	5	6	13	1	4	194	23	8.40
10	153	5	42	13	3	5	2	1	8	232	26	8.90
11	120	7	49	22	5	2	3	2	10	220	24	9.16
12	56	9	24	23	4	4		1	4	125	23	5.40
1	70	6	31	25	4	6	4	1	4	151	23	6.57
2	115	5	35	19	1	5	6	1	8	195	23	8.48
3	81	3	17	10	4	3	1	3	4	126	25	5.04
合計	1,219	100	363	198	34	67	54	18	75	2,128	294	7.24

(注) 下段の数字は外部医療機関紹介者数

地域別診療室利用状況表

平成2年4月～平成3年3月

地域 月	地域別患者数						計
	アジア	中近東	アフリカ	中南米	オセアニア	その他	
4	77	33	10	24		1	145
5	73	38	16	34	6		167
6	78	29	15	34	10		164
7	94	44	26	32	3		199
8	79	50	26	50	4	1	210
9	83	45	26	35	5		194
10	96	37	37	50	12		232
11	117	22	28	40	13		220
12	64	17	16	12	16		125
1	86	20	11	29	5		151
2	108	26	21	38	2		195
3	81	9	16	19	1		126
合計	1,036	368	248	397	77	2	2,128

6. リクリエーション

リクリエーション活動が滞在中の研修員に果たす役割はいくつかあがる事が出来るが、特に毎日の生活面での充実、気分の転換、対日理解の促進等、技術研修の合間の潤滑油として、かなりの役割を果たしているものと思われる。

平成元度中に実施した厚生活動は以下の表の通り。スポーツ、文化、娯楽、懇親会、その他に分け以下記述する。

(イ) スポーツ

1. センター体育館の利用

種目別に週間利用日を定めて設営し、ボール等必要な用具類は体育館に常備して、同好の士により常時楽しめるよう配慮した。

月曜日	卓球・バドミントン
火曜日	基礎体操・バスケットボール
水曜日	バレーボール
木曜日	バスケットボール
金曜日	バレーボール
土曜日	卓球・バドミントン
日曜日	バレーボール

2. ドウ・スポーツ・プラザ施設の利用

TIC内では出来ない水泳やアスレチック等が可能で、サウナ等の施設を持つドウ・スポーツプラザと年間契約をして、希望者には利用券を交付し、新宿と晴海の両施設で好きな時に好きなスポーツが楽しめる機会を設けた。

月 別 利 用 者 数

4月	85	7月	139	10月	144	1月	0	
5月	110	8月	110	11月	150	2月	0	
6月	134	9月	134	12月	76	3月	0	
							計	1,082

3. バレーボール大会（於：体育館）

7月7日（土）と3月2日（土）の年2回、宿泊階ごとにチーム編成をし、TICスタッフ・チームを混えた4チームでトーナメント方式により多数の応援を受け、熱のこもった試合を展開した。

4. JICAカップ・サッカー大会

9月8日（土）及び10月7日JICAサッカー部が中心となって、江戸川グラウンド等に於て八王子、神奈川、筑波及びTICの各研修員チームとサッカー部の5チームによるトーナメント方式で、おのおのが持てる技量を競った。

5. 基礎体操（於：体育館）

スポーツに伴う捻挫等を予防し、且つ全身運動によるストレス解消を狙いとして、毎週火曜日にインストラクターの指導により実施した。

(四) 文 化

1. 伝統行事の紹介

時期折々に日本の伝統文化を紹介し、対日理解促進の一助となるように努めた。

① 五月節句人形飾り

4月25日（火）から2週間、銀座ライオンズ・クラブから寄贈された三段飾り五月人形を、食堂内に展示すると同時に玄関ホール脇に鯉のぼりを飾った。

② 七夕飾り

7月5日（水）から1週間、ロビー正面に飾りつけし、研修員に短冊への願い事を呼掛けた。主に家族や友人・平和等への願い事が書かれていた。

③ お正月飾り・餅つき・おせち料理

12月26日（火）から2週間、正面玄関に門松・しめ飾りを、又ロビー正面にお供え飾り、ラウンジに羽子板・破魔矢・凧を飾りつけ新春の装いを施した。

12月28日（木）中庭で餅つきを実地し、研修員もキナコや餡子をまぶした、つきたての餅を賞味した。

元日には、食堂メニューにおせち料理・お雑煮をとり入れた。

④ 三月雛人形飾り

2月22日（金）から10日間、銀座ライオンズ・クラブから寄贈された七段飾り雛人形を、食堂内に展示した。

2. 茶道の紹介（於：和室）

伝統文化紹介の一環として、毎月1回土曜日、裏千家講師の指導により実地した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加数	15	14	15	24	21	16	26	14	8	10	4	20	187

3. 日本料理講習会

9月29日（土）と2月6日（土）の2回、渋谷区国際交流婦人の会の協力を得て、区立上原社会教育会館にて研修員に人気があり、帰国後も自国で材料等の調達可能な『茶碗蒸し』『てんぷら』『天井』『肉じゃが』『ちらし寿司』等を講師の指導により調理後、参加者全員で賞味した。

4. ちぎり絵講習会（於：ブリーフィング室）

6月29日（金）と1月18日（金）の2回、日本ちぎり絵スクール講師の指導により『朝顔』『清流渦紋』『富士山』『少女』等を和紙の素材の感触を楽しみながら制作にかかった。

5. 着物ショー（於：体育館）

10月12日（金）ハクビ京都着物学院渋谷校の協力により『十二単衣』『フォーマル着物の着付け』『花嫁衣裳』等の紹介と併せて、試着を希望する研修員25名に紋付き羽織、振り袖、訪問着等の着付けを行うと同時に、民族衣裳の紹介を兼ねたショーを実地し、アジア・アフリカ・中近東・大洋州の研修員有志がこれらに参加した。

(イ) 娯楽（於：ブリーフィング室）

1. サタデー・シアター

毎週土曜日及び年末年始に娯楽性の高い洋画を取り上げ上映した。年間上映計画をたて、人気の高い『007』ものを、月間でとり上げるなど研修員の関心を惹くようなプログラム構成をした。

			(参加人数)
4/ 7	ET		80
14	Year of the Dragon	イヤー オブ ザ ドラゴン	100
21	Conquest of the Planet of the Apes	猿の惑星	90
28	Indiana Jones and the Temple of Doom	インディー ジョーンズ	90
5/ 5	The Five Pennies	五つの銅貨	80
12	The Benny Goodman Story	ベニーグッドマン物語	85
19	The Bandwagon	バンドワゴン	70
26	The Glenn Miller Story	グレンミラー物語	80
6/ 2	007 Moonraker	ムンレーカー	100
9	007 Octopussy	オクトパシー	90
16	007 Dr. No	ドクター・ノー	80
23	007 From Russia with Love	ロシアより愛をこめて	85
30	007 For Your Eyes Only		90
7/ 7	The War of the Worlds	宇宙戦争	80
14	John Carpenter's the Thing	遊星からの物体X	85
21	The Hunter		70
28	Strike Commando		80
8/ 4	French Connection		80
11	Star Trek		75
18	The Time Machine		60
25	The Eiger Sanction		70
9/ 1	007 Live and Let Die		90
8	007 Goldfinger		80
15	007 A View to a kill	美しき獲物たち	85
22	007 On Her Majesty's Secret Service	女王陛下の007	85
29	Serpico		75
10/ 6	12 Angry Men	12人の怒れる男	70
13	The Longest Yard		80
20	Beverly Hills Cop 2		90
27	Star Trek 2 The Wrath of Khan		95

11/ 3	Zombie Dawn of the Dead		80
10	The Texas Chainsaw Massacre	悪魔のいけにえ	90
17	Forbidden Planet		70
24	It happened One Night	或る夜の出来事	65
12/ 1	Gun Fight at the OK Corral	OK牧場の決闘	85
8	Last Train from Gun Hill		70
15	True Grit		60
22	Winchester 73		76
29	1) 007 Diamonds Are Forever		90
	2) The Poseidon Adventure		80
30	1) Never Say Never Again		70
	2) Raise the Titanic		85
31	007 The man with the Golden Gun		80
	The Day of the Jackal		85
1/ 2	1) The Anderson Tapes		80
	2) Colse Encounters of the Therd Kind		85
3	1) 007 The Spy Who Loved Me		70
	2) Al Pacino as Scarface		75
5	Airport	大空港	90
12	In the Heat of the Night	夜の大捜査線	85
19	Earthquake	大地震	70
26	When World Collide	地球最後の日	75
2/ 2	The Terminator		80
9	Beverly Hills Cop 2		85
16	Rocky 2		90
23	Saturday Night Fever		85
2. フィルム・ショー (於: 体育館)			
6/ 1	Over The Top		130
8/10	Battalion	バタリオン	120
10/ 5	GOBLIN	ゴブリン	80

3. ディスコ・パーティー (於: 体育館)

年4回実施したが、気分転換を図る上で効果的なのか毎回400人を超す研修員の参加があり、大盛況であった。

4. ミュージック・サロン (於: オリエンテーション室)

ポピュラーを中心に、レーザー・ディスクによる音と画面を同時に楽しんだ。

4/13	Sammy Davis Jr. Memories the Golden Years	30
27	Misty 2 The Rolling Stones	40
5/18	Air Supply in Hawaii	30
	The afternoon Concert	20
25	Le Grand Orchestra de Paul Mauriat La. Melodie d'Amour Seiko Matsuda	35
6/ 8	Glen Miller Orchestra Live in Japan Selia E Live Romance 1600	40
22	Holiday in the World / Paul McCartney And Wings Rockshow	30
7/13	Olivea in Concert / Henry Mancini & Friends	30
30	My Music City NewYork , Paris / Prince Purple Rain	25
8/17	Led Zeppelin The Song Remains the Same	18
31	Dionne Warwick in Concert Sylvie Vartan Live in Las Vegas	25
9/14	JET STREAM South Pacific Kiss Animalize Live Uncensored	25
28	Duran Duran Arena Carole King	30
10/19	Billy Joel Live from Long Island / Romantische Strasse	30
26	An Evening with Paul Anka / The Fifth Dimension	25
11/16	Led Zeppelin The Song Remain the Same	30
23	Dinne Warwick in Concert / Sylvie Valtan Live in Las Vegas	25
12/ 7	Tina Turner private Dancer / Barry Mannilow in Concert at the Greek Theater	30
27	Count Basie Orchestra / Tonny Bennett Sings	25
1/ 4	Canadian Rockies /The Princes Trust Rock Concert	20
25	David Bowie Ricochet / Madonna Live The Vergin Tour	25
2/ 8	Sarah Vaughan / Elvis Presley Aloha from Hawaii	30
22	Lionel Richie Live / Making Michael Jackson's Thriller	25

5. 東京ディズニーランドの利用

人気の高い『ビッグ10』の利用券を希望者に発給し、好きな時に楽しめる機会をもうけた。

6. バス・ツアー

日本のハイテク産業・情報紹介の一環として年3回実地し、工場における製造工程・品質管理等の現場を実見した。

5/19 山梨ワイナリー他	38名
12/ 1 サッポロビール他	40名
2/17 ライオン川崎工場・キリンビール横浜工場	70名

7. 音楽の夕べ（於：体育館）

3月27日（金）都立杉並高校吹奏楽部の協力により、ウエストサイド物語からの曲などポピュラーな曲目をとりあげ、高校生とは思えない熱演に200人を超す聴衆は惜しめない拍手をおくった。

8. ビデオテープ等の貸出

AVルームにおける娯楽用に希望者にはフロントを通じ貸出しをし、ソフトも適宜増やしニーズに対応できるように努めた。

日本関係のビデオ・テープ（主に英語、一部仏語・西語・中国語・インドネシア語・アラビア語）についても、希望者にフロントを通じ貸出をした。
ピアノ・サッカー用具についても、希望により貸出をした。

在庫数\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ビデオ 娯楽	395	483	306	716	837	734	499	501	512	503	255	256	5,997
ソフト 教養	106	41	52	125	73	45	67	66	65	26	74	67	807
MP3-7207	135	117	113	122	232	175	149	140	142	67	134	52	1,578
CD 125	121	155	106	180	247	201	205	198	112	142	115	84	1,866
ヘッドホン16	27	29	58	74	86	76	29	56	65	89	59	38	686
ピアノ	27	19	21	19	20	12	3	11	12	32	42	28	246
合計	811	844	656	1,236	1,495	1,243	952	972	908	859	679	458	11,180

(二) 懇親会・交流会

1. 地域住民との懇親会（於：体育館）

4月3日（火）TIC前庭の桜木の開花状況を見計らい、地域住民を招待して、研修員と交流の機会を設けた。約600人の参加者で会場は立錐の余地がない程であった。

(ホ) そ の 他

1. ライブラリー

図書・雑誌類の閲覧

書籍及び各種雑誌（Time・Newsweek・The Economist・Life・Working Woman・South・Scientific American・Science and Technology in Japan・Pictorial Japan）は、ライブラリーで閲覧出来るが、希望者にはフロントを通じ貸出をした。

歳書数\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
図書 2,102	27	37	26	30	26	45	65	52	40	44	69	69	530
雑誌	73	130	149	190	195	146	194	178	66	62	57	35	1,475
合計	100	167	175	220	221	191	259	230	106	106	126	104	2,005

2. TIC マンスリーの発行

本紙は在京研修員を対象として、毎月の巻頭言により日本の行事・習慣等の紹介をと同時に滞日生活に必要で有益と思われる情報等を提供する事を目的に、毎月1回発行し配布をした。発行部数は月々の研修員数により若干変動はあったが月平均1,000部であった。

3. 外部団体の招待で、研修員が参加した主な行事は下表の通りであった。

行 事 名	実 施 日 時	実 施 場 所	主 催 者 / 参 加 者	
1 上原町祭礼	10月10日(水)	上原町会		30名
2 横浜国際青年の村	9月 8日(土)	横浜青年の会		20名
3 JOCV語学交流	11月 3日(日)	JOVCV広尾		20名
4 ホームビジット	4月26日(土)	大来様宅	S R I D	10人
5 ホームビジット	5月19日(土)	宮田様宅	S R I D	8人
6 ホームビジット	6月 9日(土)	三上様宅	S R I D	5人
7 ホームビジット	7月14日(土)	江崎様宅	S R I D	5人
8 料理教室	2月16日(土)	上原社会教育館	国 婦 会	16人
9 料理教室	9月29日(土)	上原社会教育館	国 婦 会	18人
10 ホームビジット	11月10日(土)	小林様宅	S R I D	10人
11 ホームビジット	12月8日(土)	高橋様宅	S R I D	8人

(1) 宿泊および教室の利用

(ア) 宿泊施設の利用

平成2年度における在館利用率は昭和60年度（80.3%）は上回ったものの昭和63年度（86.9%）よりは減となった。平成2年度（85.4%）

月別利用実績表

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延利用日	10,299	11,281	12,277	12,032	12,627	12,097	13,668	12,707	9,577
利用率(%)	77.8	82.5	92.7	88.0	92.3	91.4	99.9	96.1	70.1
1月	2月	3月	計						
10,518	11,402	8,931	137,416						
76.9	92.3	65.3	85.4						

(イ) 教室の利用

教室の利用は主として日本語研修および技術研修に分かれ、原則として日本語研修用8、技術研修用として13の教室を夫々割りふっている。研修員受入のピーク時の8月から11月にかけては技術研修の一部のものはセンター教室の利用が困難となった。しかし上記期間を除いてはおおむね計画通り利用され、整備された教室と充実された視聴覚機器の効果的な利用をもって研修内容の向上に大きく貢献することとなった。

月別利用実績表

区分(月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延利用可能数	420	441	441	462	483	399	462	420	378	378	399	441	5,124
延利用	セミナー	38	100	123	118	157	165	237	188	85	125	163	1,629
	日本語	260	177	182	141	108	135	138	107	83	60	100	1,692
	その他	0	0	2	1	1	1	4	5	3	2	0	20
	計	298	277	307	260	266	301	379	300	171	187	263	332
利用率(%)	71.0	62.8	69.6	56.3	55.1	75.4	82.0	71.4	45.2	49.5	65.9	75.3	65.2

- 備考
1. 教室数は21室。
 2. 日本語（夜間）は実績に含めず。
 3. 月別の延利用室数の算出は21室。当該月の日数（土、日、祭日は除く。）

館 者 一 覧 表

平成 3. 3/31

研 修 員		一 般			
(オセアニア地域)		(その他の地域)		(全 地 域)	
国 名	人数	国 名	人数	国 名	人数
フ イ ジ ー	33	サ イ プ ラ ス		日 本	405
ナ ウ ル		ギ リ シ ャ	1	イ ン ド ネ シ ア	36
ニ ウ エ		ポ ル ト ガ ル		ス リ ラ ン カ	8
パ プ ア ・ ニ ュ ー ギ ニ ア	30	ユ ー ゴ ス ラ ヴ ィ ア	11	タ イ	45
ト ン ガ	6	マ ル タ	2	マ レ イ シ ャ	19
西 サ モ ア	9	ア ル バ ニ ア	1	シ ン ガ ポ ー ル	8
キ リ バ ス	2			韓 国	9
ト ウ ヴ ァ ル				フ ィ リ ピ ン	44
ソ ロ モ ン 諸 島	9			パ キ ス タ ン	10
米 領 太 平 洋 諸 島				中 国	20
ミ ク ロ ネ シ ア	5			イ ン ド	11
ヴ ァ ヌ ア ツ	1			ネ パ ー ル	4
マ リ ア ナ 諸 島				バ ン グ ラ デ ィ シ ュ	7
マ ー シ ャ ル	2			香 港	3
パ ラ オ	2			ブ ル ネ イ	2
ク ッ ク 諸 島	1			エ ジ プ ト	10
				イ ラ ク	4
				イ ラ ン	6
				イ エ メ ン	5
				ト ル コ	5
				サ ウ デ ィ ・ ア ラ ビ ア	2
				ア ル ジ ェ リ ア	2
				ジ ョ ル ダ ン	1
				象 牙 海 岸	3
		チ ュ ニ ジ ア	1	ガ ー ナ	3
		ド ミ ニ カ 共 和 国	1	タ ン ザ ニ ア	1
		ベ ネ ズ エ ラ	1	マ ラ ウ イ	5
		P . N . G .	3	ザ ン ビ ア	1
		ア ル バ ニ ア	1	ソ マ リ ア	1
		フ ィ ジ ー	1	ケ ニ ア	5
		ユ ー ゴ ス ラ ヴ ィ ア	1	ザ イ ー ル	1
		ポ ル ト ガ ル	1	エ チ オ ピ ア	2
		パ ラ オ	1	マ リ	1
		U . S . A .	1	ト ー ゴ ー	2
				ル ワ ン ダ	4
				コ モ ロ	1
				メ キ シ コ	18
				コ ロ ン ビ ア	5
				ブ ラ ジ ル	36
				ア ル セ ン チ ン	19
				チ リ	2
				ボ リ ビ ア	4
				ニ カ ラ グ ア	4
				パ ラ グ ア イ	3
				ペ ル ー	7
				エ ク ア ド ル	2
				ウ ル グ ア イ	4
				キ ュ ー バ	2
				バ ハ レ ー ン	1
				ブ ー タ ン	1
合 計	100	合 計	15	合 計	816

総数 5,256名 (118ヵ国)

(3) 主たる便宜供与

No.	項 目	月 日	来 訪 者	応対者	対 応
1	ドミニカ・カトリック大学	4月17日	アグリピノ総長	所長	施設視察、事業概要説明、懇談
2	N H K	6月7日	国際局（アラビア語）		研修員インタビュー
3	都立駒場高校	6月28日	海外事情研究クラブ8名		施設視察、研修員と懇談
4	東京消防庁	7月5日	消防学校生徒63名		施設視察
5	ザンビア銀行	7月11日	FELIX調査課長	所長	施設視察、事業概要説明
6	高校生懸賞作文入選者	7月24日	高校生他18名	所長	施設視察、事業概要説明、研修員と懇談
7	国際協力サービスセンター	7月27日	新任研修監理員30名		施設視察
8	開発教育推進ツアー	8月2日	高校生他27名	所長	施設視察、事業概要説明、研修員と懇談
9	郵政大学校	8月3日	鳥越副校長7名	所長	施設視察、事業概要説明
10	前橋、大間々、 新田ユネスコ協会	8月8日	会長他131名	所長	施設視察、事業概要説明、研修員と懇談
11	韓国電気通信公社	9月5日	陸東京事務所長他2名	所長	施設視察、事業概要説明
12	ケニア大統領府	9月17日	SIBLE入事院開発部次長	所長	施設視察、事業概要説明、研修員と懇談
13	フィリピン大統領府	9月19日	JUAN入造りセンター所長	所長	施設視察、事業概要説明
14	マラウイ教育文化省	9月21日	ISAAC次官	所長	施設視察、事業概要説明
15	韓国海外開発公社	10月23日	金就業第2課長他4名	所長	施設視察、事業概要説明
16	渋谷地区民生委員協議会	11月8日	民生委員協議会会員30名	所長	施設視察、事業概要説明
17	インドネシア 貿易研修センター	11月21日	UTY所長他2名	所長	施設視察、事業概要説明
18	国際協力サービスセンター	11月22日	新任研修監理員20名		施設視察
19	ILOアジア太平洋地域事務所	11月22日	SUVIMOC研修担当官	所長	施設視察、事業概要説明
20	在外事務所現地 在補助員本邦研修	12月5日	JICA現地補助員他12名	所長	施設視察、事業概要説明、懇談
21	太田区教育委員会	12月6日	小中学校新任教員他80名	所長	施設視察、事業概要説明、研修員と懇談
22	東南アジア招聘計画	12月12日	タイ青年一行12名	所長	施設視察、事業概要説明
23	外務省経済協力局	1月31日	経済協力局審議官他4名	所長	施設視察、事業概要説明、研修員と懇談
24	新宿戸塚第一小学校	2月15日	学校長他20名	所長	施設視察、事業概要説明
25	西原小学校	2月20日	小学校児童他146名	所長	施設視察、事業概要説明、研修員と懇談
26	UNIDO（国連工業開発機構）	2月20日	AHMED工業事業支援部長	所長	施設視察、事業概要説明
27	南太平洋委員会事務局長	2月26日	ATANRAOI事務局長他2名	所長	施設視察、事業概要説明
28	日本原子力研究所東海研究所	3月6日	管理部厚生課長他2名	所長	施設視察、事業概要説明
29	国際開発ジャーナル誌	3月7日	取材2名	所長	事業概要説明
30	タンザニア外務省	3月25日	LILY MUNANKA日本担当官	所長	施設視察、事業概要説明
31	ヴァヌアツ首相	3月26日	WALTER LINI首相他4名	所長	施設視察、事業概要説明
32	ベトナム外務省	3月29日	THAC東北アジア局長	所長	施設視察、事業概要説明
33	ネパール大蔵省	3月25日	PANT外国援助局長	所長	施設視察、事業概要説明
34	南太平洋フォーラム	3月26日	WALTE RLINI議長他1名	所長	施設視察、事業概要説明

(4) 平成2年度収支予算実

(千円)

科 目	金 額	備 考
(収 入)	(484,024)	※ 収入増61,482千円本部振替
(款) 施設利用収入	488,051	※ 内訳は下図参照
(款) 雑 収 入	973	
(支 出)	(2,131,934)	
(款) 海外技術協力事業費	1,681,511	
(款) 管 理 費	22,881	
(款) 出資金等施設整備費	0	
(款) 施設運営費	427,542	

※ 収入489,024千円より施設運営費427,542千円支出し61,482千円本部に収入振替済

※ 施設利用収入の内訳

